

経営比較分析表（令和3年度決算）

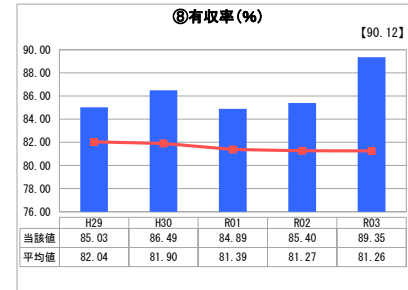
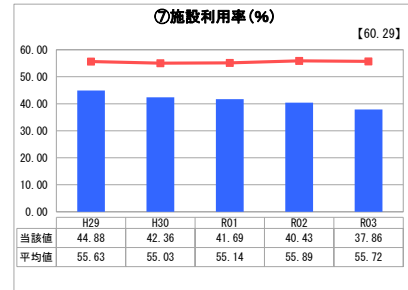
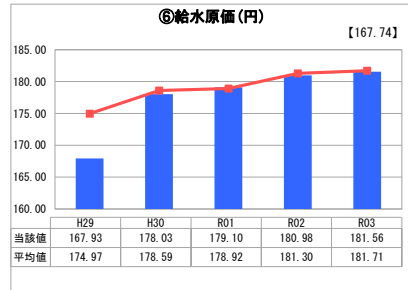
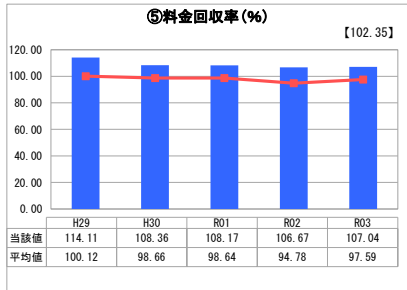
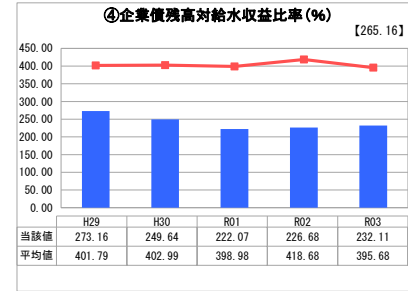
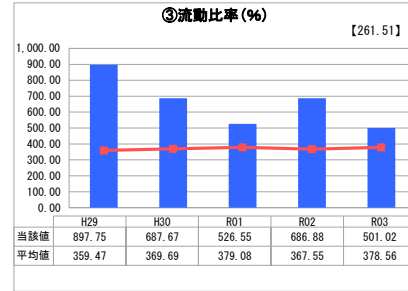
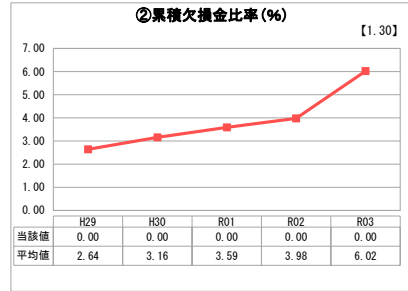
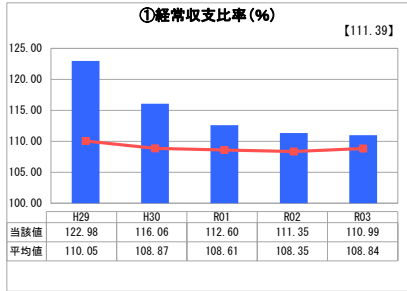
石川県 志賀町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	87.30	92.80	3,520	

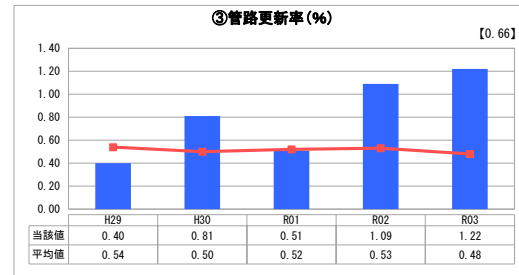
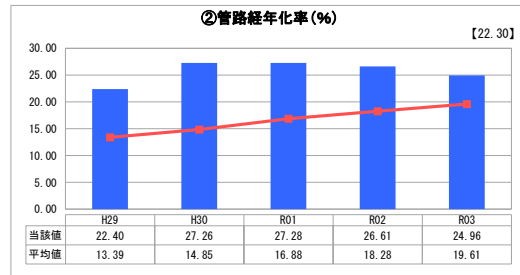
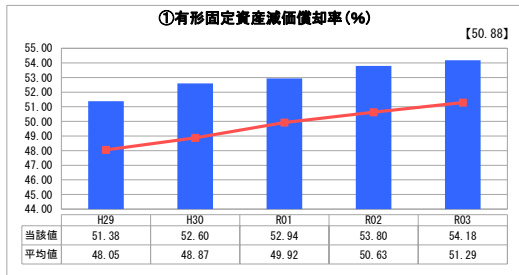
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,178	246.76	77.72
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
17,632	122.47	143.97

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【①】経常収支比率は100%を上回り、黒字で推移しているとともに、⑤の料金回収率についても100%を超え、現状ではいずれも類似団体平均を上回る良好な数値を示している。しかしながら、給水人口の減少による収益減や一般会計からの繰入金（統合水道繰入）の減少など、数値は今後悪化が予想されるため施設の統廃合を推進し、集約・効率化による費用抑制に努めていく。

【③】100%を上回っており、短期的支払能力は確保されているといえる。

【④】現状の比率は類似団体平均と比べて低い数値であるが、これは令和元年まで発行を抑制してきたことにより企業債残高は少ない状況である。今後は投資的業務の増加に伴う企業債の発行や人口減少による給水収益の減少により、指標値は上昇していくため、投資における料金水準を見極め料金改定も視野に経営改善に努める。

【⑤及び⑥】現状の料金回収率は良好であるが、給水収益が減少していく中で、更新投資にかかる減価償却費や企業債利息など費用が増加することにより、双方の指標は今後悪化していく傾向にある。そのため、一層のコスト削減が必要である。

【⑦】人口減少により、水需要が減少している。施設の遊休状態を改善するためにも、施設の適正規模を見直し、ダウンサイジングを視野に入れていく。

【⑧】類似団体よりも高い状況であるが、全国平均より低い。隠れた漏水を本格的に調査・修繕し、有収率の向上を目指すしていく。

2. 老朽化の状況について

管路については耐用年数を経過した老朽管の割合が類似団体や全国平均を上回っており、老朽化度合いが高い状況である。2-③管路更新率にみられるように、令和2年度からは、これまでの老朽管更新とともに基幹管路の耐震化にも着手し、管路更新の加速化を進めている。今後も継続的に管路の耐震化と合わせて老朽管路の更新を行って安定供給と修繕費の抑制に努めていく。また、施設の老朽化の進行も著しいため、施設更新に合わせ施設規模の見直しを検討し小規模化も含めた集約・更新を行い、将来の維持管理費の抑制を図り経営の健全化に努めていく。

全体総括

人口減少に伴う水需要の減少、水道施設の老朽化に対応するために、水道の基盤強化を図っていく必要がある。

増加する更新投資による減価償却費を視野に入れ、経営の継続的な黒字化を目指していくには、将来的に水道料金の改定も視野に検討していく。加えて、既存施設の統廃合やダウンサイジングを推進し、コスト削減を図っていく。